

国語

(解答はすべて解答用紙に記入しなさい)

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(問題の都合上、省略した箇所があります。)

ここには二つの友情の形がある。一方において、『ONE PIECE』に代表されるような、自律的な人間同士の友情がある。他方において、『友だち地獄』と評されるような、他律的な「空気」に支配された友情がある。前者が友情の理想であり、後者がその現実である。現代の若者はその狭間で引き裂かれているのかも知れない。そしてそれが、友情を面倒なものにしたり、息苦しいものにしたりにしているのかも知れない。

しばしば、そんなにも息苦しいのならば、友情なんか重視しなくていい、友達との関係なんか放棄してしまえばいい、と論じられることもある。たしかにそれも一つの考え方だろう。友達がいらない人生だって、きつと幸福に満ちたものでありえるだろう。

しかし筆者はこうした議論にあまり魅力を感じない。なぜならそれは、友情が必然的に息苦しいものになること、欺瞞に陥る関係性であることを、むしろ肯定することになるからだ。それは友情の可能性を自ら矮小化し、過小評価することのよう思える。むしろ私たちが問い直すべきなのは、本当にそれだけが友情のあり方なのか、それとは別の友情もありえるのではないか、何よりもそれ以前に、そもそも友情とは何か、ということではないだろうか。

友達関係は、互いが友情を認め合うことで成立する。そうであるとすれば、互いが友情をどのように定義しているのか、友情をどのように理解しているのかによって、その関係性はまったく違ったものになるはずだ。そして、そうした友情の概念が一つに限定されなければならない理由なんてない。そこには多様な友情の可能性を認めることもできるはずだ。

ある友情が、私たちに息苦しさをもたらすものであったとしても、それだけが唯一の友情のあり方であるとは限らない。別の角度から友情を理解できるようになれば、私たちは友達との関係を新しい形で理解し、そこに今まで気づくことのなかった何かを見出せるかも知れない。友情に新たな可能性を、新たな価値を認められるようになるかも知れない。

『ONE PIECE』にエガかれているような、自律的な人間同士の友情も、一つの友情の概念である。そこに示されているのは、互いが揺らぐことのない自分の信念を持っていて、仲間からどう思われるかを気にすることなく、ソツキョクに意見をぶつけ合える関係だ。A、そんな関係がキズいたら素晴らしい。しかし、それが最高の友情とは限らない。それだけが友情であるとは限らないのだ。

友情とは何か。それは一つの哲学的な探求である。実際に、過去のイタリヤな哲学者たちは、私たちよりもはるかに多様に、豊かに、^⑤キバツな仕方^⑥で友情を論じてきた。そこには私たちのまだ知らない、**B** 忘れ去ってしまった、豊穠な友情の可能性が眠っている。

そうした英知を探訪しながら、友情の概念を問い直し、単純化された理想像を相対化すること。それによって友情を新しい光のもとで眺めること。

³それが本書のテーマである。

もっとも、そのように友情を問い直すためには、それに先立って、友情とは何であるかが漠然と理解されていなければならない。私たちは、ほんやりとはわかっていないが、はつきりとはわかっていないことこそ、問うことができるからだ。

C 友情は、互いの感情だけをつながりとする関係性である、と定義することができよう。そしてここから友情に備わる次のような性質が導き出せる。

第一に、友情とは、**4** 関係である。たとえば恋愛をするとき、人は基本的には契約をする。「付き合ってください」と告白し、それに対して合意を得ることで、はじめて関係性が成立する。そうした契約を伴わない恋愛は暴力に発展する可能性があり、望ましくない。それに対して、友情が契約に基づくことはほとんどないし、あつたとしても不必要であると思われる。たとえば誰かと友達になるとき、「友達になってください」と告白し、合意を得ることはあまりない。

また、第二に、友情とは **5** 関係である。たとえば家族は戸籍という形で国家に管理されている。国家は、「私」が誰と家族であるかを把握しており、問題が生じれば「私」に対して何らかの働きかけをしてくる。しかし、私たちは自分が誰と友達であるかを誰にも申請しない。だからこそ、国家は「私」が誰と友達であるかを把握することができない。したがって、友情を管理するのは、その友情を交わしている当事者だけ、つまり友達同士だけである、ということになる。

そして第三に、友情とは、**6** 関係である。たとえば恋愛において、関係を終わらせるには別れ話をしなければならない。夫婦が離婚するためには国家に対して離婚届を提出しなければならない。これらの関係性において、自分以外の誰かからその承認を得なければ、「私」はその関係を解消することができない。しかし、友情の解消にそうした承認は必要ない。友達のうちの一方が、もうその友情を終わらせたいと思えば、その瞬間に関係性は解消されるのである。

友情とは、契約に基づかず、誰からも管理されず、常に解消可能な関係である。これらは、友情が満たさなければならない条件として、前提にしても構わないだろう。そして、ここから導き出される帰結は、友情は本質的に不安定である、ということだ。

私たちが誰かと友達になったとしても、その関係を「私」の代わりに保証してくれるものは、何もない。友情は常に存続の危機に立たされている。友情を継続するためには、友達との関係を配慮し続け、友達に対して働きかけなければならない。炎に薪をくべ続けるように、自ら関わりを作り出さなければならないのだ。そうした活動を少しでも怠れば、友情は簡単に解消されてしまう。だからこそ誰かと友達でい続けることは、新しい友達を見つけることよりも、はるかに難しいことなのである。

(出典 戸谷洋志『友情を哲学する 七人の哲学者たちの友情観』光文社による)

問一 ~~~~~線①⑤のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 **A** **C**に入る言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア あるいは イ しばしば ウ もちろん エ けっして オ さしあたり カ なぜなら

問三 —線1—「その狭間で引き裂かれている」とありますが、どういふことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自律的な人間同士の友情と他律的な「空気」に支配された友情の二つの友情のうち、どちらが正しいのか現代の若者は迷っているということ。

イ 他律的な「空気」に支配された友情が現実であると理解しているので、友情を面倒に感じたり息苦しく感じたりしているということ。

ウ 『ONE PIECE』のような友情にあこがれを抱いているが、「友だち地獄」が現実であると気づいてあきらめの気持ちでいるということ。

エ 自律的な人間同士の友情が理想であると理解しながら、他律的な「空気」に支配された友情の現実を引き受けなければならないということ。

オ 他律的な「空気」に支配された友情のほうが現実的で身近にあるからこそ、かえって自律的な人間同士の友情が理想的に見えるということ。

問四 ―線2「こうした議論にあまり魅力を感じない」について。

1 「こうした議論」の指す内容を本文中から一文で抜き出し、その最初の五字を答えなさい。(句読点等記号も一字に数える。以下の問いも同じ。)

2 筆者はなぜ「魅力を感じない」のですか。その理由を本文中から四十八字で抜き出し、最初と最後の五字を答えなさい。

問五 ―線3「それ」とはどういうことですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 友情の概念が一つに限定されなければならないという考え方を否定し、各人の定義にしたがって友情が成立していることに気づくということ。

イ 過去の哲学者の知見を参考にして、友情を別の角度から見直すことでその多様性を考え直し、新たな可能性や価値を探索すること。

ウ 現代の若者の息苦しさを解消するために、本当の友情とは何か、互いが友情を認め合うとはどういうことかを新しく見つめ直すということ。

エ 過去の哲学者の英知を探訪しながら、忘れ去られてしまった豊穣な友情の可能性を発掘することで、理想的な友情観を相対化すること。

オ 自律的な個人間の友情も一つの友情の概念であることを理解しながらも、それだけが最高の友情とは限らないことを世の中に広めるということ。

問六 4～6に入る言葉をそれぞれ十字以内で答えなさい。

問七 ―線7「はるかに難しい」のはなぜですか。五十字以内で説明しなさい。

大問2は著作権の関係上、省略

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(問題の都合上、一部表記を変えた部分があります。)

皆人親に孝行をするとして、身貧しうしても酒をととのへ、肴を求めて、是れをあたへ、孝行面をするかと思へば、又ある時はたてをつき、氣に逆ふて親の腹を立つる。是れ孝に似て孝にあらず、口中を養ふばかりを、孝行と意得る事、浅ましき事なり。

1 誠の孝行といふは、食物ばかりの事にあらず。何事にも親の命を背かず、たとひ不義なる事をいふとも、いかにも言葉を柔らかにして理由を言つて説得するのがよい。

にわけをいひて諫むべし。不義なるとておほごゑをあげ、目にかどをたて怒り回す事、親に

2 の第一、又脇よりも見苦し

く、怒りて物をいひたるとて、理屈が相手によく伝わるものでもない。腹を立て物をいふ時は、いひ過し多くしてかうくわひする事のみ

なり。又面々の身にも覚えあらん。我に人の諫めをいふに、柔らかに詞をいへば心よく合点し、よき事にてもあらけなく人のいふ

時は、我わろきことはさて置き、腹立つるものなり。「身をつみて人の痛さを知れ」と世話にいひ伝へたる事、尤もの理なり。親

を持つ程の人、仮初にもあらけなくいひて、親の腹を立つる事あるべからず。是れをさして孝行といはんか。

【身の鏡】による)

問一 線 a「ととのへ」・b「おほごゑ」・c「かうくわひ」を現代仮名づかいによる表記に書き改めなさい。

問二——線3「心よく合点し」・4「我わろきこと」の文中における意味として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

3 心よく合点し

- ア 気軽に賛成し
イ 運よく成功し
ウ 積極的に改善し
エ 簡単に勘違いし
オ 気分よく納得し

4 我わろきこと

- ア 自分の嫌いなこと
イ 自分のよくないこと
ウ 自分の苦手なこと
エ 自分分らないこと
オ 自分の困っていること

問三——線1「誠の孝行」とありますが、筆者の考える孝行とはどういうことですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 親に苦勞をけないこと。

イ 親の好物を用意すること。

ウ 親を大切に思うこと。

エ 親の言うことに従うこと。

オ 親と一緒に暮らすこと。

問四——☐ 2に入る言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 不安

イ 不吉

ウ 不変

エ 不明

オ 不孝

問五——線5「是れ」の指す内容を本文中から十七字で抜き出し、最初と最後の三字を答えなさい。(句読点等記号も一字に数える。)

問一	①		②		③		④		⑤
----	---	--	---	--	---	--	---	--	---

問二	A		B		C		問三	
----	---	--	---	--	---	--	----	--

問四	1				2			
----	---	--	--	--	---	--	--	--

問五	
----	--

問六	4							
----	---	--	--	--	--	--	--	--

問六	5							
----	---	--	--	--	--	--	--	--

問六	6							
----	---	--	--	--	--	--	--	--

問七																			
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問一	①		②		③		④		⑤
----	---	--	---	--	---	--	---	--	---

問二	a		b	
----	---	--	---	--

問三			
----	--	--	--

問四			問五		問六	
----	--	--	----	--	----	--

問七																			
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問一	a				b		c	
----	---	--	--	--	---	--	---	--

問二	3		4	
----	---	--	---	--

問三			問四	
----	--	--	----	--

問五			
----	--	--	--

↓ここにシールを貼ってください↓



2402100